

アメリカにおける 「近代化」文献目録の作成について

中村 弘光

日本の「近代化」をめぐる、アメリカの日本研究歴史学者・社会学者(E.O. Reischauer, J.W. Hall, M.B. Jansen, W.W. Lockwoodら)と日本の歴史学者社会学者との間に、その問題意識、アプローチの点で根本的なギャップが存在することは周知のことといえよう。アメリカをはじめとする西欧諸国において、「近代化」の問題が、単に日本研究者、中国研究者、あるいはスラブ研究者といった地域研究関係者だけの課題ではなくより広く社会諸科学の interdisciplinary な、またより一般的な課題となったのは、1960年頃以降のことであった。この背景には、第2次世界大戦後における中国・東欧における社会主義政権の成立、アジア・アフリカ新興国家誕生といった事態に対応した新しい処方箋を作成しようという意図があったことは否定できない。

「……における近代化の研究」と銘うった数多くの図書・論文が刊行されるとともに、近代化の一般理論についても、政治学、社会学、経済学、歴史学、また文化人類学、教育学等々の諸分野で追求されはじめた。それらの業績のうち David E. Apter〔3〕, Cyril E. Black〔4〕, Myron Weiner〔5〕, S.N. Eisenstadt〔6〕〔7〕等は邦訳されているし、Edward Shils, Gabriel A. Almond, Lucian Pye, Marion Levy らの著作・論文も紹介されている。「近代化」の文献目録としては、社会科学協議会(Social Science

Research Council)の比較政治委員会(Committee on Comparative Politics)が監修するシリーズ Studies in Political Development〔9〕〔10〕〔11〕〔12〕の各巻末尾にはすぐれた解題目録・文献展望が収録されている。歴史家 C.E. Black〔4〕の文献展望もニエークであるし、M. Weiner 邦訳書〔5〕も文献目録を収めている。

しかし、ここでは、これら近代化論に関する文献目録を包括的にとりあげることは避けて、最近刊行されたハーバード・プロジェクトと M. I. T. プロジェクトの2つの文献解題目録をとりあげてみたい。「近代化」とはまさに多面的な問題であり、とりあげる視角によっては、それらに関する資料価値はどのようにでも変りうる。このようなテーマについて、その研究調査活動を支援するためには、どのようなフレームワークにもとづいて、どのような文献・資料を収録するのがよいのか。またどのような作成方法をとって、検索手段をどう準備するのが望ましいか。こうした問題を考えるために、若干の参考になるのではないかと思うからである。

〔1〕 Brode, John: *The process of modernization: an annotated bibliography on the socio-cultural aspects of development.* Foreword by Alex Inkeles. Cambridge, Harvard Univer-

sity Press. 1969. 10, 378.

ハーバード大学で実施されている「開発の社会文化的側面に関するハーバード計画」(Harvard Project on the Socio-cultural Aspects of Development)と称される研究計画の一環をなすものであるが、このプロジェクト関係研究者のみならず、「むしろ、これは、世界各国の学者が、中心テーマ《近代化》の諸側面に関する歴大な文献から、それぞれの目的に従って選択しうるツールとして企てられた」(編者序文, p. 1)といわれている。ここで近代化と考えられているのは現代工業世界における諸関係に支配的な調子あるいはエートスであり、目的志向型行動によって実現されるものとされ、合理化(rationalization)と同義とされている。このプロジェクトでは、近代工業の導入、それにたいする労働者の適応プロセスに中心がおかれており、工業化、都市化、農村化という3つの側面に分けて文献も整理されている。この目録は、プロジェクト遂行に必要な比較資料を提示する意味で、近代化プロセスに関する各地の実態調査にとくに重点をおいている。

目録本体の構成は、第1部、一般(一般理論、社会変動の一般的叙述、一般書誌、論文集)、第2部、工業化(工業社会変動の理論、工業労働者、工業のインパクト、農村工業、一般研究、社会経済的研究、書誌)、第3部、都市化(都市社会変動の理論、都市問題、都市家族、一般研究、社会経済的研究、書誌)、第4部、農村近代化(農村社会変動の理論、農村部門の近代化、商業的農業、農村開発、農村指導者、農村経済、農村家族、村落、部族的要因、一般研究、社会経済的研究、書誌)の4部にわけられ、著者名索引、地域別索引が付けられている。前述したように、

この目録は、実態調査報告に重点がおかれているので、解題(平均3~4行で極めて簡潔)は第2~第4部の理論、一般研究、社会経済的研究、書誌以外の部分に収められた文献にのみ付けられ、解題文献はさらに星印(1個は平均以上、2個は優秀、3個はとくにすぐれたもの)によって格付けされている。文献収録範囲は、スラブ系諸国のものは除外されているが、西欧諸国語に限定せず日本語のものをも含み、単行書、雑誌論文、単行書収録論文をも含んでいる。調査対象雑誌数は460におよび項目数は2500をこえている。文献のチェックには、ニネスコの *International bibliography of social and cultural anthropology* を基本として、各種の主題別専門書誌を参考に行っている。

編者は目録の趣意をのべた序文の他に、「文献の簡単な展望」、「地域別研究の簡単な展望」と題する小論を書いて、1930年代以降の工業化の社会的側面についての研究史を略述し、また、推薦図書・雑誌リストを附している。ここで彼が推薦している雑誌16点には *International Social Science Journal*, *Economic Development and Cultural Change*, *American Anthropologist* 等を、また、一般文献として、Bert F. Hoselitz, W.E. Moore, G. Balandier, P.J. Bohannan, Raymond W. Firth 等の著作を推している。これらから推察しうるように、この文献目録は、工業化、都市化に関する社会学、社会人類学による研究調査に中心をおいていることはあきらんであろう。

収録文献の調査対象地域別みると、各国単位ではインドがもっとも多く、日本、南アフリカ共和国、ザンビア、フィリピン、インドネシア等がそれに続いており、全体として

みると、アジア・アフリカの中の先進地域に集中し、ラテン・アメリカが意外に少なく、中東地域もまた少ない。日本関係で収録されているものは、大半が第2次大戦後の社会変動を扱ったものである。編者はどこにも明示していないが、第2次世界大戦前の刊行文献はごく重要な単行書に限定され少数であり、大部分が1960年以降に発表されたものである。

収録文献の検索を容易にするために、大分類コード名、[GEN (一般), IND (工業化), URB (都市化), RUR (農村近代化)]と各節別・各節別のアイテム番号を組合せて、各文献ごとの番号を附している。たとえば、R.E. Philips: *The Bantu in the city*. はURB2420で、これは、第3部都市化、第2節都市問題に収められ、解題を附していないことを示している。索引(著者名別、地域別)をみればこの番号と発表年とが示されているので個々の研究者が必要とする資料かどうかは、大体推定しうるようになっていく。

[2] Frey, Frederick W.: *Survey research on comparative social change—a bibliography*. Cambridge, The MIT Press, 1969. 1v. (un paged)

マサチューセッツ工科大学国際問題研究所でも「近代化における人的要素」に関する研究プロジェクトを進めており、そのために開発途上各国の社会変動に関する実態調査をまとめた解題書誌を作製した。この書誌は、アフリカ(190点)、アジア〔東アジア、南アジア、東南アジア〕(1030点)、カリブ海地域(99点)、ヨーロッパ(314点)、ラテン・アメリカ(213点)、中東(215点)、北アメリカ(22点)、オセアニア(44点)、その他(50点)

の地域別にわけられ、さらに細かい主題別に分類され、一点ごとに、調査方法、成果などを含む解題を付けている。主題分類は、(1)一般的叙述と集団比較、(2)集団と個人の関係、(3)認識、パーソナリティおよび行動、(4)家族、育児、老人、人口集団としての女性、(5)社会変動、コミュニケーション、教育、(6)政治的制度・態度および行動、(7)経済的行動および制度、(8)特殊なトピック、(9)方法論に大別され、各主題とも細かいトピックに細分されている。

収録文献は、260種の英文雑誌に収録された実態調査報告に限定され、各雑誌は創刊から1967年刊行分までチェックされている。

この目録に収められているものは、前述した主題分類からも推測しうるように、社会心理学的、あるいは行動科学的な要素が強くあらわれている。対象地域別では、前述の Brode のものと同様にインドが圧倒的に多く、日本がそれに次いでいる。(日本刊行の英文雑誌としては、*Developing Economies*, *Japanese Psychological Research*, *Monumenta Nipponica* からのみ採録されているので、社会心理学による調査が異常に多い。

なおこのプロジェクトは、M.I.T.の技術情報プログラム(Technical Information Program)(TIP)によって開発された情報処理システムにより、コンピューターを使って編成・印刷したものである(別図本文形式見本参照)。この作成作業は次の14段階を經過している。1. LOAD (紙テープからディスクへ。順不同)、2. EDA (ディスク上の編集)、3. REDUCE (TIP フォーマットへ)、4. TIP (複数の地域にまたがる文献を複製)、5. TIP (地域別に編成)、6. TIP (分類の相互参照作成)、7. SORT (分類標数別に編成)、8.

SEQUEN (一連番号附与), 9. MERGE (見出し[主題分類表]の編入), 10. TIP (outputのため本文編成), 11. TIP (著者, 国, トピック別索引), 12. SORT (索引ソート), 13. MERGE (索引見出し編成), 14. TIP (outputのための索引編成)。

索引は, 著者, 対象国名, トピックの辞書体編成で, 本文見本として例示した文献の場合には, Biesheuvel, S., South Africa, Intelligence, measurement of., Africans, Europeans の5項目から検索可能である。

この2つの文献目録は, ほぼ同じような意図をもって作成されたものではあるが, その結果にはかなりの相違点が見られる。すなわ

ち, ハーバード・プロジェクトは, 編者 Brode あるいはプロジェクト・リーダー Alex Inkeles によって, 「近代化の社会的・文化人類学的研究」という基本テーマが定められて作製されているのに対し, M.I.T. の場合には, 「開発途上地域の社会変化」というややあいまいなフレーム・ワークをたて, 特定英文雑誌に掲載されたものを徹底的にチェックする方法をとっており, 収録文献すべてを解題しているが, 採録雑誌ならびに論文の採否の基準は明確とはいえない。ハーバード・プロジェクトは既成2次文献をチェックし, やや包括的に文献を列挙している。そのために収録論文は, M.I.T. の場合に比較して幅が広くバランスがとれている。

Africa 3.1 0061

ITEM			
NUMBER	→ 0062		TOPICAL
	3.1 9.4411	←	CODE NUMBERS
COUNTRY	→ South Africa		
	Biesheuvel, S.	←	AUTHOR
TITLE	→ "The Study of African Ability"		
	AFRICAN STUDIES, Vol. 11, No. 2	←	SOURCE
ANNOTATION			
	<p>(1952), pp. 45-58.</p> <p>The study was concerned with the degree to which environment can influence intellectual development qualitatively and quantitatively. The article emphasizes the problems of cross-cultural comparison in this area; with a sample of 125 African children, it was found impossible to obtain a useful control group of European children in South Africa. If the I.Q.'s were matched, then the Europeans were entirely unrepresentative of their group in other respects; if status in the social groups was matched, then there was a large I.Q. disparity. When subjects matched only for age and sex were given Porteus Maze, Passalony, reasoning tests, the score equalities could have been attributed to unrepresentative sampling; when spatial relation tests like Kohs Blocks and Cube Construction were given, the inequality could have been due to specific uncontrolled cultural circumstances.</p>		

検索手段についてみれば、M. I. T. 方式の方が詳細にチェックできるが、収録されている文献自体が、特殊な地域に関する特殊な実態調査研究であるために、この目録に収められた文献だけでは、プロジェクトの本来の目的（社会変動の比較研究）を達成するためにはやや不十分であるという結果をもたらしているように思われる。ハーバード・プロジェクトの検索方法では、細かいトピックはとらえられないとはいえ、逆に幅広く関連文献をさがしうという利点がある。また、実態調査報告に重点をおきながらも、より一般的な経済社会的研究をも収録していることが、この目録の利用者の幅をいっそう広げているようだ。

この2種の文献目録はいずれも、「近代化」を中心テーマとして編纂されたものであるが、われわれからみれば、そのフレームワークについて若干の疑問点が浮び上るのを否定することができない。「近代化」にたいする関心・アプローチの方法が異なるからだともいえようが、決定的な点は、近代化を歴史的展望のなかで把握しようという姿勢がこれらの文献目録作業に欠けていることであろう。

〔関連参考文献〕

- [3] Apter, David E.: *Politics of modernization*. Chicago, The Univ. of Chicago Pr., 1966. 16, 481.
内山秀夫訳：近代化の政治学，末来社 1968，2冊
- [4] Black, C. E.: *The dynamics of modernization: a study in comparative history*. New York, Harper & Row, 1966. 8, 206.

内山秀夫；石川一雄 訳：近代化のダイナミックス——歴史の比較研究——慶応通信 1968. 313.

- [5] Weiner, Myron ed.: *Modernization—the dynamics of growth*. New York, Basic Books, 1966. 18, 355.

上林良一；竹前栄治訳：近代化の理論 法政大学出版局 1968. 347, 27.

（巻末に訳者編さんによる参考文献目録〔英文・邦文〕——主として日本近代化関係）

- [6] Eisenstadt, S. N. 大森弥他訳：近代化の政治学 みすず書房 1968. 196.

（「近代化——成長と多様性」他論文を収録。同一内容の論文を収めた英文単行書は刊行されていない。）

- [7] Eisenstadt, S. N.; *Modernization: protest and change*. Englewood Cliffs, New Jersey, Prentice-Hall, 1966.

内山秀夫；馬場晴信 訳：近代化の挫折 慶応通信社 1969. 9, 344.

（邦訳には「伝統、変動、および近代性——近代化の理論に関する若干の考察——を」補論として収録。）

- [8] Eisenstadt, S. N. ed.: *The Protestant ethic and modernization—a comparative view*. New York, Basic Books, 1968.

- 8,407. Bibliography, 385-400.
- [9] Pye, Lucian W. ed.: *Communication and political development*. Princeton, Princeton Univ. Press, 1963. 14, 381.
A selected bibliography, prepared by Thelma Jean Grossholtz and Richard Hendrickson, 351-368.
- [10] Ward, Robert E. and Dankwart A. Rustow, eds.: *Political modernization in Japan and Turkey*. Princeton, Princeton Univ. Press, 1964. 8, 502.
Bibliography, 469-486.
- [11] Coleman, James S. ed.: *Education and political development*. Princeton Univ. Press, 1965, 12, 620.
Attitude, competence, and education: a selective bibliographic guide to the relation of education to political socialization, by Kenneth I. Rothman, 585-609.
- [12] LaPalombara, Joseph and Myron Weiner eds.: *Political parties and political development*. Princeton, Princeton Univ. Press 1966. 8, 487.
A selected bibliography, prepared by Naomi E. Kies, 439-464.
(アジア経済研究所図書資料部)

ケインズ全集 《明年6月刊行開始》

The Collected Writings of

JOHN MAYNARD KEYNES

General Editor : E. A. G. Robinson

J. M. ケインズの打ち出した理論体系は、学会に多大な影響を及ぼしましたが、また、彼は極めて多方面にわたり活躍の跡を残し、著作・論文なども膨大な量に達しております。

この度、Royal Economic Society が、彼の全著作を網羅して編集、その第一陣ともいうべき数点がいよいよ明年6月刊行されます。その後も、著作、論文、小冊子、新聞・雑誌のための論文・記事、他の経済学者と交した書簡などが逐次刊行されますのでご期待下さい。

■収録内容を記載した資料を送ります。「書籍部」宛にご請求下さい。

(Macmillan, London / 日本総代理店 丸 善)